

講義コード	25468021
担当者	久保真准教授
研究題目	経済学を相対化する

【ゼミのテーマ】

久保ゼミの第二期テーマは、「経済学を相対化する」です。もう少し詳しく言うと、経済学を鵜呑みにしなければならない絶対正しい権威的なものと考えてのではなくて（とはいえ、経済学は現代社会に大きなプレゼンスがあります）、それに対して「何か変じゃない、その考え方」という目線で考えを巡らせることです。従って、「なんとなく経済学部に入ったけど、経済学にイマイチ馴染めねーよ」とか「経済学って机上の空論じゃね、現実に意味あんのかよ」とか「政治学とか社会学とかとどう違うの?」といった、①critical (批判的) な考えや志向をもっている人に入ゼミしてもらいたい（また、そうした視点に立った卒論を書いてもらいたい）と考えています。もちろんそのためには、経済学を正面から理解しようとするのを忘れてはなりません（知ったかぶりをして悪く言うのは、critical と異なります）。

なお、私の専門分野は経済学史（金曜限「経済学史A」担当）ですが、必ずしも歴史に興味があるという人でなくても構いません。とはいえ、歴史に興味ある人は大歓迎です！

【ゼミの運営（ゼミの時間）】

通常授業では、テキスト（教員が指定したものやゼミ生自身が選んだもの）の内容やそれが提起している論点について、報告（プレゼン）をしてもらいます。個人で報告する場合もあれば、グループで報告する場合もあります。報告の際に重視されるのは、②coherent（理路整然とした）なプレゼンができるかどうかです。資料の出来映えや発声、アイコンタクトなども大切ですが、説得力あるプレゼンをするためにはなにより coherence が大事だからです。またこれを鍛えるためには、異なる見解をもつものと議論をすることが有効です。報告のあとには報告者以外からの質問や批判に応じてもらいます。ここで他のゼミ生から質問や批判がないと議論になりませんから、ゼミ生がゼミに対して③participatory（積極的に参加する）であることが大切です。

なお、卒業論文やその習作として三年次に作成してもらおう論文についても、報告をしてもらいます。

【ゼミの運営（ゼミの時間以外の活動）】

ゼミが発足して一年も経っていません（私は2013年度に開学に着任しました）から、まだ定例化した行事はありません。参考のために記しておく、一期生は、11月と3月に合宿を行いました（ただし、3月の合宿は原稿執筆時点では予定です）。前者は懇親目的、後者は勉強と懇親両方が目的です。また、学部公式行事の学内インゼミ大会（11月）のポスターセッションに参加し、また1月に経済学部本郷ゼミと合同ゼミ（映画鑑賞、報告会、コンパ）を行いました。

なお、こうした行事の運営は、基本的に、ゼミ代表をはじめゼミ生自身に担ってもらっています。

※【重要】入ゼミ志望者には大学の付与したメールアドレス（ドメインが@kwansei.ac.jpのもの）宛に種々の連絡を行いますので、志望者は必ずチェックしておいて下さい。

受け入れ条件		(定員が越えた場合のみ) 志望理由書の提出と面接への参加
担当者のプロフィール	専攻	経済学史、経済理論
	現在の研究テーマ	経済学という学問分野が自立した「科学」として社会に受容されていく過程に研究上の関心をもっています。具体的には、18世紀から19世紀にかけてのイギリスの状況を考察することを、研究テーマとしています。
	所属学会	経済学史学会、History of Economics Society